



大雨に対応する呼びかけ

雨が強まる前

豪雨災害は、事前の備えが十分可能です。

ハザードマップや避難ルートを確認する。避難所への避難か在宅避難かを検討する。気象や避難の情報を得られるようにしておく。敷地の片づけや備蓄の補充をしておく。できることはたくさんあります。「自分が被害にあうことはないだろう」という思い込みをなくすため、対策を呼びかけましょう。

雨が強まる前に地域のハザードマップを確認するなど、近くに危険な場所がないか確認してください。

いつでも避難できるよう準備をするとともに、危険を感じたら自主的に避難を始めましょう。

テレビやラジオ、インターネットで、気象庁や自治体からの最新情報を確認し行動してください。

暗くなると避難が難しくなります。危険な場所にいる人は、明るいうちに避難場所や頑丈な建物の上の階など安全な場所に移動してください。安全な地域に住む親戚など頼れる人がいれば、そこへの避難も考えてください。

自治体からの情報が間に合わないこともあります。
周囲の様子がふだんと違ったり危険を感じたりしたら、
すぐに安全を確保してください。

道路の側溝や排水溝にたまったごみや
落ち葉などを取り除き、物を置かないでください。
水が流れず、浸水の危険性が高まります。

水が入り込むのを防ぐには、土のうや止水板も有効です。
台所や浴室、トイレの排水口に、ビニール袋などに水を入れた
水のう(すいのう)を置くと逆流を防ぐ効果があります。



大雨に対応する呼びかけ

雨が降り続いていて 降り方が強まったら

避難を呼びかけるラストチャンスかもしれません。状況が悪化する前に、行動を促してください。川沿いや斜面の近くに住む方は、特に注意が必要です。雨の降り方によっては、避難所への避難がかえって危険な場合もあります。在宅でも危険な場所から離れて過ごすよう伝えます。災害を経験した多くの方が、「あっという間に状況が悪化した」と語ります。手遅れになる前の呼びかけが重要です。

土砂災害や川の氾濫、浸水などが起きるおそれがあります。自治体から「避難指示」が出たら、(危険な場所にいる人は)避難所や頑丈な建物の高い階、斜面から離れた建物など安全な場所に避難する必要があります。

これまでの雨で地盤が緩んでいます。周囲の状況に注意し、早めの避難を心がけてください。避難が難しい場合は、建物の上の階やできるだけ斜面や川から離れた場所で身の安全を確保してください。

大規模な土砂崩れや川の氾濫では、建物全体が被害を受け、上の階への避難だけでは安全を確保できない場合があります。早めの行動をお願いします。

暗くなってからの避難は危険を伴います。
明るいうちに避難を始めてください。

あなたが率先して避難すると、周りの人の避難にもつながります。

川が氾濫しなくても、市街地で排水ができずに水があふれる「内水氾濫」が起きることがあります。雨の強まっている地域の人、川の水位の上昇だけでなく内水氾濫にも警戒してください。

川から離れた地域でも浸水することがあります。地下街や地下室、地下駐車場などの低い場所は、水が激しく流れ込み、水圧で扉が開かなくなるなど危険です。早めに上の階に移動してください。

お年寄りや障害のある人、お子さんなどは避難に時間がかかります。「高齢者等(とう)避難」の情報などをもとに、より早い避難をお願いします。

近くに情報が伝わっていないお年寄りなどはいないでしょうか。可能であれば声をかけてください。

**周囲が浸水してからの避難は大変危険です。
歩くことも難しくなります。早めに安全を確保してください。
特にお年寄りや体の不自由な人の避難には、
支援をお願いします。**



大雨に対応する呼びかけ

非常事態を伝える

災害の危険が迫る時、それは生き抜くための手立てを考えるフェーズです。呼びかける側は、災害が差し迫っていたり既に発生したりしていることを、切迫感をもって伝えます。一方で、慌てず正しく行動できるよう具体的かつ冷静に伝えることも大切です。ご自身の安全も確保し、命を守る言葉を届けてください。

あなたやご家族の命を守るためにお伝えします。
避難や安全確保が遅れると命に関わります。
避難できなくなる前に行動してください。

すでに被害が出ていてもおかしくない地域もあります。
「過去に災害が起きていないから大丈夫」
「特別警報が出るまでは避難しなくてよい」などと
思わないでください。

猛烈な雨が降っている地域では、
すでに土砂災害や川の氾濫、浸水などが起きている
おそれがあります。安全な場所に避難してください。

外への避難がかえって危険な場合もあります。
周囲の状況を確認し外に出るのが難しい場合、
建物の上の階や斜面から離れた部屋に移動したりしてください。

すでに避難した人は、安全が確認されるまで避難を続けてください。
家や田畑、用水路などを見に行かないでください。

すでに周囲が浸水している場合、
外を歩いたり車で移動したりするのは危険です。
頑丈な建物の上の階に避難し、
居場所を警察や消防などに伝えてください。

冠水した道路では、水の下でマンホールのふたが
外れていたり道路の側溝や用水路が隠れていたりすることが
あります。
やむを得ず外に出る場合、棒などで足元を確認しながら
進むなど慎重に行動してください。

土砂で家に閉じ込められたり浸水して孤立したりしたら、
自分の居場所を周りに知らせてください。
音を立てたり布を振ったりして、助けを求めてください。

以降の呼びかけは、
「〇〇川流域の皆さんにお伝えします！」に続けて

●●川の氾濫に厳重に警戒してください。
堤防を越えた水は、家屋を押し流すほどの勢いになることが
あります。自治体が出す避難の情報に従い、頑丈な建物の上の階に移動するなど、命を守る行動をお願いします。

様子を見ようと川や田畑、用水路などに近づくのは極めて危険です。
冠水すると道路との境が分からなくなり、流されるおそれがあります。
増水した川や用水路には絶対に近づかないでください。
(様子を見に行き亡くなった方もいます。)

川の幅や深さ、形によっては、流れが速くなったり急激に水位が上がったりすることがあります。
すでに水位の上がった川だけでなく、それ以外の川の周辺でも、早めの安全確保をお願いします。

(山間部など)川の流れの速いところでは、川岸が削られて家屋ごと流されるおそれがあります。
大きな岩や木などが流されてくることもあり、大変危険です。

川から離れた場所でも(川が氾濫していなくても)、マンホールや側溝などから水があふれることがあります。
すでに浸水している場合、浅くても流れがあると足を取られて危険です。状況により無理な避難は控え、建物の上の階に移動してください。

雨が収まっても、上流で降った雨の影響で川の水位が上がることもあります。



大雨に対応する呼びかけ

自治体・気象庁からの情報

災害の危険度などに応じて、自治体や気象庁からさまざまな情報が発表されます。情報が出た際は、この呼びかけ文言をあわせてお使いください。また、その時々雨の降り方を見て「雨が降り続いていて、降り方が強まったら」「非常事態を伝える」の呼びかけ文言を組み合わせ、身近な人が適切に行動できるよう呼びかけてください。

「(大雨の)特別警報」が出ました。

数十年に一度しかないような災害が差し迫っています。最大級の警戒が必要です。周囲の状況を確認し、すぐに安全を確保してください。外に出るのが危険な場合は無理をせず、状況に応じてその場で安全を確保するなど、命を守る行動を最優先してください。

「緊急安全確保」が出ました。

直ちに命を守る行動をとるよう自治体が呼びかける情報です。

すでに災害が発生、または発生が切迫している状況です。避難場所などへの移動が手遅れになっていることもあります。近くの頑丈な建物や上の階、斜面から離れた部屋に移動するなど、命を守る行動をとってください。

「避難指示」が出ました。

危険な場所から全員が避難するよう自治体が呼びかける情報です。

避難指示が出た地域の皆さんは、危険な場所から避難してください。

「土砂災害警戒情報」が出ました。

大雨警報が出た地域のうち、雨量が多く特に土砂災害の危険性が高まった市町村に出る情報です。

ハザードマップなどで危険な箇所を確認し、厳重に警戒してください。

「高齢者等(とう)避難」の情報が出ました。

高齢者や体の不自由な人などに避難を始めるよう呼びかける情報です。

高齢者や体の不自由な人などは、危険な場所から避難を始めてください。

支援する人は、安全な場所に連れていくなど行動を始めてください。

そのほかの人も、危険性に応じて、避難の準備をしたり自主的に避難を始めたりしてください。

「顕著な大雨に関する情報」が出ました。
土砂災害や川の氾濫などの危険度が急激に高まっています。
同じ場所に長時間、危険な雨が降り続き、
命に関わる深刻な事態になるおそれがあります。
自治体の避難情報を確認し、周囲の状況を見て、
可能なら危険な場所からすぐに避難してください。
外に出るのが危険な場合、
建物の上の階や斜面から離れた部屋に
移動するなど、命を守る行動をとってください。

「記録的短時間大雨情報」が出ました。
数年に一度しかないような大雨になり、
災害が発生する危険が差し迫っているときに発表される
情報です。
土砂災害や低い土地の浸水、川の氾濫などに
厳重に警戒してください。